

村宮 克彦 (Katsuhiko MURAMIYA)

大阪大学大学院 経済学研究科
560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-7

researchmap <https://researchmap.jp/muramiya>
ORCID <https://orcid.org/0000-0002-3738-7523>
GitHub <https://github.com/muramiya>

学歴

- 2002年3月 大阪市立大学商学部卒業
- 2004年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了
- 2007年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了
- 2007年3月 神戸大学より博士（経営学）を取得

職歴

- 2006年04月 ~ 2007年09月 大阪産業大学経営学部客員講師
- 2007年04月 ~ 2007年09月 神戸大学大学院経営学研究科学術推進研究員
- 2007年10月 ~ 2013年03月 神戸大学経済経営研究所講師
- 2013年04月 ~ 2015年03月 大阪大学大学院経済学研究科講師
- 2015年04月 ~ 大阪大学大学院経済学研究科准教授
- 2023年04月 ~ 大阪大学大学院経済学研究科教授

その他

- 2017年12月 ～ 行動経済学会監事
- 2019年09月 ～ 日本経営財務研究学会評議員
- 2019年11月 ～ 行動経済学会「行動経済学」編集委員
- 2020年04月 ～ 日本経済会計学会 *Accounting Letters*, Associate Editor
- 2021年01月 ～ 日本経営財務研究学会「経営財務研究」編集委員
- 2021年04月 ～ 日本経済会計学会理事
- 2021年04月 ～ 日本経済会計学会「現代ディスクロージャー研究」編集委員
- 2022年09月 ～ 経営財務研究学会学会賞選考委員

研究業績

著書

- 1 (教科書)『実証会計・ファイナンス — Rによる財務・株式データの分析』(笠原晃
恭と共著) 新世社, 2022年.
サポートサイト: <https://www2.econ.osaka-u.ac.jp/~eaafinr/>
- 2 (教科書・分担執筆) 岡田克彦編『Pythonによるビジネスデータサイエンス4 — ファ
イナンスデータ分析』朝倉書店, 2022年.
サポートサイト: <https://github.com/asakura-data-science/finance>
- 3 (教科書・分担執筆) 桜井久勝編『テキスト国際会計基準 新訂版』白桃書房, 2018年.
- 4 (研究書・分担執筆) 桜井久勝・音川和久編『会計情報のファンダメンタル分析』中
央経済社, 2013年.
- 5 (研究書・分担執筆) 桜井久勝編『企業価値評価の実証分析—モデルと会計情報の有
用性検証』中央経済社, 2010年.

論文

(査読有)

- 1 「日本市場におけるバリュートラップ: 会計原則の影響に基づく説明の検証」(小野慎
一郎・椎葉淳と共著) 経営財務研究 第40巻1・2号, 45–63頁, 2020年.

- 2 “How Cross-Shareholding Influences Financial Reporting: Evidence from Japan,” (with Tomomi Takada) *Corporate Governance: An International Review*, 28 (5): 309–326, 2020. doi.org/10.1111/corg.12333
- 3 「クリーンサープラス関係を利用した時間的に変動する期待リターンの推計」(小野慎一郎と共著) 証券アナリストジャーナル, 第55巻第10号, 70–81頁, 2017年.
- 4 “Quality of Financial Inputs and Management Earnings Forecast Accuracy in Japan,” (with Tomomi Takada) *Journal of Contemporary Accounting and Economics*, 13 (2): 179–191, 2017. https://doi.org/10.1016/j.jcae.2017.05.001
- 5 「経営者が公表する予想利益に基づく企業価値評価」現代ファイナンス, 第23号, 131–151頁, 2008年.
- 6 「経営者が公表する予想利益の精度と資本コスト」証券アナリストジャーナル, 第43巻第9号, 83–97頁, 2005年.

(査読無)

- 1 「会計原則と期待リターン」(小野慎一郎・椎葉淳と共著) 証券アナリストジャーナル, 第60巻第10号, 55–66頁, 2022年.
- 2 「財務報告の目的と会計原則」會計, 第199巻第2号, 146–159頁, 2021年.
- 3 「対数線形・現在価値法に基づく事業の資本コスト」(小野慎一郎と共著) 証券アナリストジャーナル, 第57巻第10号, 39–50頁, 2019年.
- 4 「ビッグデータと会計研究」(竹原均と共著) 証券アナリストジャーナル, 第56巻第12号, 25–35頁, 2018年.
- 5 「組替財務諸表に基づく ROE 予測の有効性」(小野慎一郎・椎葉淳と共著) 国民経済雑誌, 第218巻第1号, 59–79頁, 2018年.
- 6 「将来予測シグナルとしての受注残高情報」(小野慎一郎と共著) 証券アナリストジャーナル, 第51巻第12号, 37–49頁, 2013年.
- 7 「大手監査事務所の保守的行動に関する分析」(高田知実と共著) 国民経済雑誌, 第208巻第4号, 53–68頁, 2013年.
- 8 「業績予想の開示・非開示が情報の非対称性に及ぼす影響」証券アナリストジャーナル, 第49巻第6号, 18–29頁, 2011年.
- 9 「企業の情報開示と株主資本コスト」IR-COM, 10月号, 4–7頁, 2010年.
- 10 「監査サービスの変容が利益の保守性に及ぼす影響に関する実証分析」(高田知実と共著) 国民経済雑誌, 第201巻第2号, 55–65頁, 2010年.

- 11 「倒産企業の財務比率の時系列特性」(桜井久勝と共著) 国民経済雑誌, 第 196 巻第 6 号, 1-16 頁, 2007 年.
- 12 「企業情報の開示と株主資本コストの関連性」(音川和久と共著) 会計, 第 169 巻第 1 号, 79-93 頁, 2006 年.

書評

- 1 円谷昭一『政策保有株式の実証分析 — 失われる持合いの経済的効果』日本経済新聞出版, 会計・監査ジャーナル, 第 784 巻, 82-83 頁, 2020 年.
- 2 斎藤静樹『企業会計入門』有斐閣, 企業会計, 第 67 巻第 4 号, 142 頁, 2015 年.
- 3 Ito, Kunio and Makoto Nakano (Eds.), *International Perspectives on Accounting and Corporate Behavior (Advances in Japanese Business and Economics)*, Springer, 2014. 証券アナリストジャーナル, 第 52 巻第 11 号, 99-101 頁, 2014 年.

受賞歴

- 1 2005 年証券アナリストジャーナル賞 (“村宮克彦「経営者が公表する予想利益の精度と資本コスト」証券アナリストジャーナル, 第 43 巻第 9 号, 83-97 頁, 2005 年” に対して)
- 2 2018 年度日本経営財務研究学会学会賞 (“小野慎一郎・村宮克彦「クリーンサープラス関係を利用した時間的に変動する期待リターンの推計」証券アナリストジャーナル, 第 55 巻第 10 号, 70-81 頁, 2017 年” に対して)
- 3 令和元年度大阪大学賞 (若手教員部門)

学会報告等研究活動

研究報告

- 1 (発表)「会計原則と期待リターン」一橋会計研究会, 一橋大学, 2023 年 2 月.
- 2 (講演)「株式市場における会計情報の役割: 資本コストやガバナンスとの関連性を中心にして」同志社大学 ITEC・M.L.D 第一回合同研究交流会, オンライン, 2023 年 2 月.
- 3 (発表)「現在価値関係に基づく会計研究の展開」京都大学会計学セミナー, 京都大学, 2022 年 12 月.
- 4 (発表)「エンタープライズ・レベルのリターンの変動要因」第 1 回「企業会計」カンファレンス, オンライン, 2021 年 9 月.

- 5 (招待講演) 統一論題報告「財務報告の目的と会計原則」日本会計研究学会第79回大会, オンライン, 2020年9月.
- 6 (発表) 「対数線形・現在価値法による加重平均資本コストの推定」第11回TGH会計ファイナンス研究会, 法政大学, 2019年7月.
- 7 (発表) 「会計情報と期待リターン」武蔵経済セミナー, 武蔵大学, 2019年3月.
- 8 (発表) 「投資ベースの資産価格モデルと会計発生高の将来リターン予測能力」第7回大阪市立大学会計研究会, 大阪市立大学, 2018年3月.
- 9 (発表) “Investment-Based Asset Pricing Model and Predictive Power of Accruals for Future Returns,” Nagoya Finance Workshop, 名古屋大学, 2017年9月.
- 10 (発表) “What Moves Firm Values?” Workshop on Empirical and Experimental Accounting Research, 福井県立大学, 2016年3月.
- 11 (発表) “What Moves Firm Values?” 第1回JARDISワークショップ, 県立広島大学, 2016年3月.
- 12 (発表) 「時間を通じて変動する期待リターンの推計とICC研究の新展開」第5回大阪市立大学会計研究会, 大阪市立大学, 2016年3月.
- 13 (発表) “Do Lower R^2 Values Signify Informativeness or Noise? Evidence from the Great East Japan Earthquake,” 日本会計研究学会第65回関西部会, 大阪市立大学, 2015年12月.
- 14 (発表) “How Do Investors Trade When Actual Earnings Are Reported with Management Forecasts?” 名古屋市立大学会計系クラスターセミナー (現代会計政策研究会共催), 2014年12月.
- 15 (発表) “Stock Crash and R^2 around a Catastrophic Event: Evidence from the Great East Japan Earthquake,” 東北大学会計大学院会計研究会, 2013年12月.
- 16 (発表) “Stock Crash and R^2 around a Catastrophic Event: Evidence from the Great East Japan Earthquake,” 東京経済大学現代ファイナンス研究センター・研究セミナー, 東京経済大学, 2013年11月.
- 17 (発表) “Financial Reporting Opacity, Stock Price Synchronicity, and Catastrophe-Based Stock Crash,” 名古屋大学ファイナンス研究会, 名古屋大学, 2013年6月.
- 18 (発表) “Financial Reporting Opacity, R^2 , and Catastrophe-Based Stock Crash,” Handai Accounting Research Seminar (HARS), 大阪大学, 2012年9月.
- 19 (講演) 「ディスクロージャーの経済的帰結」日本IR協議会第26回関西部会, ハートンホール日生御堂筋ビル, 2011年9月.

- 20 (発表) “How Do Investors Trade When Actual Earnings Are Reported with Management Forecasts?” 伊藤邦雄研究会, 一橋大学, 2011年7月.
- 21 (発表) “Reporting of Internal Control Deficiencies, Restatements, and Management Forecasts,” 2011 Annual/Summer International Conference, Korean Accounting Association, Lotte Hotel Jeju, June 2011.
- 22 (発表) “Information Asymmetry of Cross-Held Companies in Japan,” 武蔵大学ワークショップ, 武蔵大学, 2011年3月.
- 23 (発表) “Investor-Level Reactions to Earnings Announcements: Evidence from Japan,” 2011 The Japanese Accounting Review Conference, Takigawa Memorial Hall, Kobe University, February 2011.
- 24 (発表) “Reporting of Internal Control Deficiencies, Restatements, and Management Forecasts,” Asian Academic Accounting Association, Annual Conference, The Shangri-la Hotel, Bangkok, November 2010.
- 25 (発表) 「投資家の異質性を前提とした決算発表に対する投資行動分析」中央大学企業研究所ワークショップ, 中央大学, 2010年10月.
- 26 (発表) ‘Reporting of Internal Control Deficiencies, Restatements, and Management Forecasts,’ American Accounting Association, Annual Meeting, Hilton San Francisco Union, August 2010.
- 27 (発表) 「資本コストを用いた会計研究の潮流」中央大学企業研究所公開研究会, 中央大学, 2009年12月.
- 28 (講演) 「資本コストを用いた会計研究の潮流」滋賀大学経済学部講演会, 滋賀大学, 2009年11月.
- 29 (発表) “Management Earnings Forecast and Asymmetric Timeliness of Earnings,” American Accounting Association, Annual Meeting, Hilton New York, August 2009.
- 30 (発表) “Abnormal Accrual, Informed Trader, and Long-Term Stock Return: Evidence from Japan,” Workshop on “Business Science in the Global Economy”, 神戸大学, 2009年1月.
- 31 (発表) 「経営者が公表する予想利益と市場のミス・プライシング」兼松セミナー (現代会計学研究会共催), 神戸大学, 2007年11月.
- 32 (発表) 「経営者の予想バイアスと投資者の利益予測の困難性」日本会計研究学会第66回全国大会, 松山大学, 2007年9月.
- 33 (発表) 「経営者が公表する予想利益の精度と資本コスト」兼松セミナー, 神戸大学, 2007年5月.

- 34 (発表)「企業情報の開示とアナリストの情報精度」日本会計研究学会第64回全国大会, 関西大学, 2005年9月.

研究助成金

- 1 科学研究費：基盤研究 (B)「会計原則が意思決定支援機能に与える影響に関する総合的研究」(研究代表者), 2023~2026年.
- 2 科学研究費：基盤研究 (C)「バリュー効果に関する実証分析：会計学視点からの検証」(研究分担者), 2023~2026年.
- 3 科学研究費：基盤研究 (C)「会計情報の実際的有用性の再検討：高頻度データを用いた実証分析」(研究代表者), 2020~2022年.
- 4 科学研究費：基盤研究 (B)「利益情報の役割の再検討：収益性とリスクの評価に関する総合的研究」(研究分担者), 2018~2021年.
- 5 科学研究費：基盤研究 (C)「財務報告の質がリスク指標に及ぼす直接的影響の検証」(研究代表者), 2016~2019年.
- 6 科学研究費：若手研究 (B)「企業固有ボラティリティとクラッシュ・リスクに基づく財務会計の機能の検証」(研究代表者), 2013~2015年.
- 7 科学研究費：基盤研究 (B)「国際財務報告基準 (IFRS) 時代の財務報告の質に関する実証的評価」(研究分担者), 2011~2013年.
- 8 科学研究費：若手研究 (B)「決算発表と私的情報に基づく取引確率との関連性に関する実証研究」(研究代表者), 2009~2011年.
- 9 科学研究費：基盤研究 (C)「監査サービスの変容が会計情報と資本市場に及ぼす影響の実証分析」(研究分担者), 2009~2012年.
- 10 科学研究費：基盤研究 (A)「会計情報を活用した企業評価に関する総合的研究」(研究協力者), 2007~2009年.
- 11 財団法人全国銀行学術研究振興財団 研究助成 「私的情報に基づくトレーダーの取引確率が会計発生高アノマリーに及ぼす影響に関する実証研究」(研究代表者), 2009年.
- 12 科学研究費補助金：基盤研究 (C)「経営者が公表する予想利益と市場の効率性」(研究代表者), 2007~2008年.

社会活動

学術誌レフェリー等

Asia-Pacific Financial Markets

Australian Journal of Management

Japan & the World Economy

Pacific-Basin Finance Journal

Review of Development Economics

The Japanese Accounting Review

会計プロGRESS

現代ディスクロージャー研究

現代ファイナンス

経営財務研究

Last updated: April 3, 2023